第１学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　１年１組教室　指導者　赤松　由佳

１　主題名　　正しいとおもうことを（A善悪の判断、自律、自由と責任）
（教材名：やめろよ　出典：生きる力１【日本文教出版】）

２　目　標

正しいと思ったことができたときは、自分で考えて行ったからこその喜びや自信が生まれることを理解し、正しいと思ったことを進んで行おうとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

児童は、よいこと悪いことの区別をしながら学校生活を送っている。一方で、正しいと分かっていても、相手への不安や自分の気持ちの揺れから、すぐに行動に移せないこともある。そのような中で、自分が正しいと思ったことをしたときは、うれしさや自信が生まれることに気付き、勇気を出して正しいと思うことを進んで行おうとする心情を育てたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、日常生活の中で、してよいことやしていけないことに気付き、自分なりに考えて行動しようとする姿が見られる。また、友達が困っている場面では、心配したり、助けたいと思ったりする気持ちが芽生えつつある。一方で、周りの様子が気になったり、言葉にして伝えることをためらったりすることもある。本時では、登場人物の思いを考えながら、正しいと思うことを行うよさについて考えたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】
・本教材は、友達の行為に対して「それはよくない」と感じ、勇気をもって止めようとする姿を描いている。身近な友達同士の場面の中で、正しいと思ったことを行動に移すときの「どきどき」や「ためらい」が分かりやすく描かれており、１年生でも自分の経験と重ねて考えやすい。
・主人公の心情を捉えることを通して、正しい行動には迷いやためらいもあることに気付くとともに、自分で考えて行動できたときには喜びが生まれることを見つめることができる。児童の中にあるよいことを大切にしたいという思いを確かめ、正しいことを進んで行おうとする意欲を育むことができる。

〈こんな手だてで〉
・フェイスカードを選ぶことで、自分の経験に照らして「ぼく・わたしもこういう顔になったことがある」と自我関与しやすくなる。
・ぽんたがそのまま通り過ぎようとしたときと「いじわるはやめろよ」と言えたときの場面でフェイスカードを用いて表情を選ばせることで、心情の変化を具体的に捉えやすくする。
・フェイスカードの選択理由を発表させ、自分の経験を重ねて考えることで、正しいと思うことができたときとできなかったときの気持ちの違いに気付きやすくする。

【学習後の児童に期待する姿】
・正しいと思うことができると心の中がすっきりし、自分で考えて行動したからこそ、うれしさや自信が生まれることに気付き、正しいと思ったことを進んで行おうとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、事前のアンケート「いじわるを見たとき、心はどんな顔になるかな」について提示し、いじわるを見たときの嫌な気持ちを学級全体で共有し、教材の世界観へつなげる。

展開では、ぽんたたちがそのまま通り過ぎようとした心の内を考える。「通り過ぎようとしたぽんたの心はどんな顔かな」と問い、ぴょんこを心配する思いがありながらも、こんきちが怖いことや、関わることへの不安があったことを捉える。ここでは、選んだフェイスカードを基に、「どうしてその顔を選んだのかな」と尋ねることで、児童が言葉にしにくい迷いやためらいを共有できるようにする。選んだ理由を大切にし、多様な感じ方を認める。

そして中心発問では、「ぽんたが『いじわるはやめろよ。』と言えたとき、ぽんたの心の中はどんな顔かな」と発問する。ここでも、児童はぽんたの気持ちに合うフェイスカードを選び、隣同士で選んだ理由を伝え合った後、全体で交流する。うれしい顔が選ばれると考えられる。「何がうれしかったのかな」と問い返し、その理由に目を向けることで、ぴょんこを大切に思う気持ちや、いじわるを止めたい思いに目を向けられるようにする。

その後、言う前と、言えた後のフェイスカードを比べて、迷いや怖さがあったからこそ、ぴょんこを大切にできたことへの安心感や、自分で正しいと思ったことを行えた喜び、すがすがしさが見えてくるように板書をする。

そして、「ぽんたみたいに、自分で考えて正しいことができるとどんなよいことがあるかな」と問い、自分で考えて行えたときには、自分自身や周囲の人の心に温かい気持ちが生まれることに気付けるようにしたい。終末では、今日の授業で新しく学んだことを振り返り、今後の生活の中で迷いを感じる場面においても、自分で決めて正しいことをしようとする態度の形成につなげたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、電子黒板、タブレット端末、ワークシート　（児童）タブレット端末

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　アンケートを提示する。（5）	いじわるを見たときの心の中は、どんな顔かな			
	・「かなしい」いじわるをされた人がかわいそうだから。	・「かなしい」自分もいじわるされたらいやだから。	・「もやもや」かわいそうだけど、怖くて何もしてあげられないから。	※いじわるやいじめがいけないことであり、悲しい、心配になるなど児童の素直な感じ方を受け止め、教材の世界に自然に入れるようにする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　正しいことをすると、どんなよいことがあるかな			
	・ほめられる。	・ありがとうと言ってもらえる。	・いい気持ちになる。	
3　教材文を読む。（3） 4　いじわるを見たときのぽんたの気持ちを考える。（8）	こんきちがいじわるをしているのを見たとき、ぽんたの心の中は、どんな顔かな			
	・「かなしい」ぴょんこがかわいそう。	・「かなしい」自分もいじめられそうで嫌だな。	・「もやもや」止めたいけれど言えなくてもやもやする。	※全員がフェイスカードを選ぶという形で参加し、「どうしてその顔にしたのかな」と問い、選んだ理由を隣同士で伝え合う時間を設け、全体で話し合う。
5　通り過ぎようとしたときのぽんたの気持ちを考える。（8）	通り過ぎようとしたとき、ぽんたの心の中は、どんな顔かな			
	・「かなしい」自分もいじめられたらこわいから。	・「もやもや」どうせ、注意してもやめないだろう。 ・だれかがやめさせてくれるかな。	・「もやもや」ぴょんこを助けたいけれど、自分もまきこまれたらいやだから、勇気がなくて言えない。	※「どうして、ぽんたはすぐに『やめろよ。』と言えなかったのかな」と補助発問することで、「ぴょんこを助けたい気持ちはあるが、自分もいじめられたら怖いという気持ちがあり、正しいと分かっていても、怖さや不安から行動に移せない心の弱さや迷いにつながる意見を拾い、どうするかまだ決められずにもやもやしていることを板書で可視化する。
6　いじわるはやめろよと言えたときのぽんたの気持ちを考える。（15）	「やめろよ。」と言えたとき、ぽんたの心の中は、どんな顔かな			
	・「うれしい」怖かったけれど、助けられたから。	・「うれしい」言えたからうれしい。	・「すっきり」言えないときはもやもやしていたけれど、勇気を出して言えてすっきりした。 ・ぴょんこを助けたいという思いが強くなって、自分で考えて言えたから、すっきりした。	※「どんな考えから、『いじわるは、やめろよ。』と言えたのかな」と補助発問をすることで、「ぴょんこを助けたい」「怖くてもいじわるをやめさせたい」など児童の意見をつなぎ、言う前の迷いから、どのように考えが変わったのかを板書で整理する。 【キーワードとなる児童の発言】「言えてすっきりした」 【キーワードに対する切り返しの発問】「ぽんたは、どのような思いで言ったのかな」
	正しいことをすると、どんなよいことがあるかな			
	・いい気持ちになる。	・正しいことをするときには、勇気がいるが、できたときは、すっきりする。	・どきどきするけれど、自分で決めて正しいことができると、気持ちがよかった。	※「二つの顔を比べると、どんなことが分かるかな」と補助発問をすることで、自分で考えて行えたときのよさについて、板書を見ながら自分の言葉で書くように声掛けをする。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・正しいことができるとうれしい。	・どうしようか迷うけれど、正しいことができたらすっきりする。	・自分で決めて正しいことをしてみたい。	※困っている児童には、板書を見ながら、心に残ったところを一つ選ぶように促す。

（4）評　価

・正しいと思ったことを自分で考えて行ったときの気持ちよさについて考え、正しいことを行おうとする思いを表現しようとしているか。（発言・ワークシート）